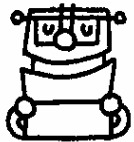




小 / 理科 / 6年 / 物質とエネルギー /
物の燃え方と空気 / 理解シート

クリーンエネルギーって、なんなの



エネルギーをつくり出すとき、二酸化炭素や空気をよごす気体などを出さない、発電などのことさ。

石油などからエネルギーをとり出すと、二酸化炭素がふえる

人間は、部屋を温めたり、料理をしたり、ジェット機や車などを走らせたり、工場の機械を動かしたりするのに、石油やガス、石炭などを燃やしています。電気を使うものは、電気の一部を火力発電でつくっているのだから、やはり、石油などを燃やしてつくり出していることになります。

これらの燃料を燃やすと、必ず、大量の二酸化炭素や、ちっ素と酸素が結びついた空気をよごすガスなどが出てきます。現在、地球の大気中に二酸化炭素がふえ、それが地球の気温を上げる原因になっているといわれています。気温が上がれば、南極の氷などがとけて海面が高くなり、東京なども海の下になるとか、砂ばくがふえるなど、大変なことが起こると考えられています。

大気をよごさないエネルギーが、クリーンエネルギー

燃料を燃やさずにエネルギーをつくり出す、大気をよごさない「クリーンエネルギー」として、次のようなものが、実験・研究されています。

日光のエネルギーで電気をつくり出す太陽電池（太陽光発電）、風の力で大きな風車を回し、エネルギーをとり出す風力発電、地下の熱を利用した地熱発電、うち寄せる波の力を利用した波動力発電、川の水を利用した水力発電などです。

太陽電池や風力発電などは、まだ、利用するために必要な設備や費用とくらべて、得られる電力などが少なく、大規模に実用に使うところまではいたっていません。

太陽電池で走る電気自動車は、
クリーンエネルギーなのね。

